

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和7年度 技術情報第13号（普通期水稻のトビイロウンカ）について（送付）

普通期水稻のトビイロウンカについて、下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。



なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>）にも掲載しています。

令和7年度 技術情報第13号

南さつま市金峰町（農業開発総合センター内）に設置している水田予察灯で8月8から9日にかけて、海外からの飛来と考えられるトビイロウンカ成虫が多数誘殺されました。ほ場をよく見回り、今後の急激な増加を見落とさないように適期防除に努めて下さい。

- 1 対象病害虫 トビイロウンカ
- 2 対象作物 普通期水稻（晩生品種）

3 予察の根拠

- (1) トビイロウンカが水田予察灯に8月8日に76頭、9日に50頭誘殺された（表1）。今回の誘殺成虫は、8月上旬に九州に停滞した前線の影響による海外からの飛来成虫と考えられる。
- (2) 今回飛来したトビイロウンカが定着したほ場では、8月下旬から9月上旬に第一世代、10月中旬に第二世代が発生すると予測され（図1）、収穫時期が10月中下旬となる晩生品種では被害を生じることが懸念される。

4 防除対策及び防除上注意すべき事項

- (1) 8月8、9日の海外からの飛来に由来するトビイロウンカの次世代の防除時期は、8月28日から9月1日頃と予測される（図1）。なお、上記の時期は、箱施用剤のトビイロウンカに対する防除効果が低下しているため、本田における防除が必要となる。
- (2) トビイロウンカは世代が進む毎に急激に増加し、坪枯れ等の被害（図2）をもたらすことから、発生を認めたら速やかに防除する。
- (3) 「あきほなみ」「あきのそら」などの中～晩生品種では、被害が発生する恐れがあるので、表2を参考に農薬を選定し、収穫までの日数など農薬登録を遵守し、防除する。
- (4) トビイロウンカの発生は地域やほ場により異なる。また、同じほ場内でもスポット的に株元に発生しているため、ほ場全体を観察し、本虫の発生を確認する。
- (5) 液剤や粉剤で防除する場合は、農薬が株元に十分届くよう散布する。

5 参考データ

表1 予察灯でのウンカ類の誘殺虫数（2025年）

日付	60W予察灯（水田）		
	南さつま市		
	トビイロ ウンカ	セジロ ウンカ	ヒメトビ ウンカ
6～7月計	2	57	19
8/1	0	0	0
8/2	0	4	1
8/3	0	0	0
8/4	0	0	0
8/5	0	1	0
8/6	0	0	0
8/7	0	1	0
8/8	76	669	0
8/9	50	301	0
8/10	3	16	0
8/11	1	4	0
8月計	130	996	1

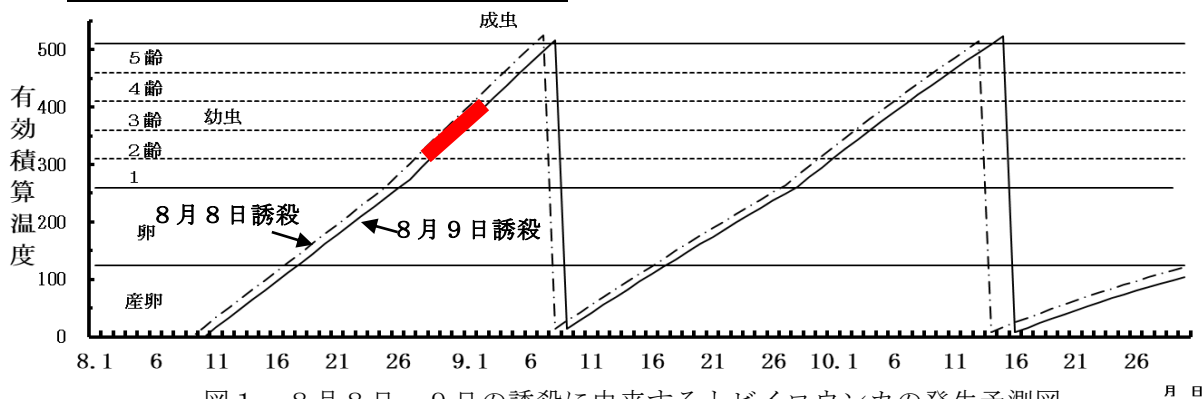


図1 8月8日、9日の誘殺に由来するトビイロウンカの発生予測図

注) 赤色部分が防除適期を示す。なお、気温は、加世田のアメダスポイントデータを利用しているため、気温の低い地域では予測より2～4日程度遅くなる。

表2 トビイロウンカの本田施用剤（令和7年8月13日現在）

農薬名	使用時期	トビイロウンカに対する有効成分
エクシード粉剤DL	収穫7日前まで	スルホキサフロル
エクシードフロアブル	収穫7日前まで	スルホキサフロル
エミリアフロアブル	収穫7日前まで	フルピリミン
オーケストラ粉剤DL	収穫7日前まで	ベンズピリモキサン
オーケストラフロアブル	収穫7日前まで	ベンズピリモキサン
トレボン粉剤DL	収穫7日前まで	エトフェンプロックス



図2 トビイロウンカによる坪枯れ被害